# 多言語・多文化社会：多多民族国家インドネシアと華人ディアスポラ (ver 3.1 2014-05-13)

## 1. インドネシア概要

インドネシア共和国、首都ジャカルタ、1945年8月17日独立
人口2億5,361万人（2014年推計、世界第4位）、面積191万平方キロ（日本の5.5倍）、13,466の島々

## 2. インドネシアの主な民族集団（かっこ内は言語使用者の割合）

スマトラ島北部：アチェ人.
スマトラ島北部：バタック人*.
スマトラ島西部：ミナンカバウ人.
ジャワ島西部：スンダ人（約15%）.
ジャワ島中・東部：ジャワ人(約40%).
マドゥラ島・ジャワ島東部：マドゥラ人.
バリ島・ロンボック島：バリ人**.
スラウェシ島南部：ブギス人.
スラウェシ島中部：トラジャ人*.
スラウェシ島北部：ミナハサ（マナド）人*.
スマトラ島東岸・カリマンタン南岸：マレー人（狭義，約12%）．マレー半島を含む.
カリマンタン内陸部：ダヤック人.
以上の他に中国人（約300-400万人）.
*：キリスト教徒が多い．**：ヒンドゥー教徒が多い.

## 3.「インドネシア人」意識の形成

19世紀：オランダによる植民地支配が浸透する。「オランダ領東インド」の形成。
「自由主義」に基づく民間資本によるプランテーション経営は住民の窮乏を招く。
倫理政策：1901年から1920年代まで.
住民福祉の向上を図り、地方分権・原住民官吏養成のため近代学校教育を普及→知的エリート層の中から民族主義者が誕生→民族主義者たちの独立の要求に対し、オランダは一転して弾圧政策
青年の誓い
1928年10月28日.
私たちインドネシアの青年男女にとって、唯一の祖国・民族・言語はインドネシア（Indonesia）である.
日本軍政期：1942年から1945年まで.
1942年．オランダ語の使用禁止.
独立：1945年8月17日
1945年8月17日、スカルノ初代大統領による独立宣言→オランダは独立を承認せず→オランダとの独立戦争→1949年12月27日、ハーグ協定でオランダはインドネシアの独立を承認．インドネシア連邦共和国成立．1950年8月15日、インドネシア共和国成立.

## 4. 海外在住の中国人（Overseas Chinese）の呼称

「凡そ海水が流れて至る地方では、都に華僑あり。」かつては唐人とも.
「華僑」=中華，中国．「僑」=仮住まい．海外に移住または在留している中国人で、本国の国籍を喪失していないもの．「衣錦還郷」（故郷に錦を飾る）．1890年代から使用.
「華人」=「落地生根」（居住地の土に根を生やして生きていく）.
「華裔」=海外に住む中国人の子孫で，中国国籍を持たないもの.

表1 海外在住の国別華人人口トップ15

| 順位 | 国 | 人口 | 地域 |
|---|---|---|---|
| 1. | Indonesia | 7,566,200 | 東南アジア |
| 2. | Thailand | 7,053,240 | 東南アジア |
| 3. | Malaysia | 6,187,400 | 東南アジア |
| 4. | United States | 3,376,031 | 北アメリカ |
| 5. | Singapore | 2,684,900 | 東南アジア |
| 6. | Canada | 1,612,173 | 北アメリカ |
| 7. | Peru | 1,300,000 | 南アメリカ |
| 8. | Vietnam | 1,263,570 | 東南アジア |
| 9. | Philippines | 1,146,250 | 東南アジア |
| 10. | Burma | 1,101,314 | 東南アジア |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 11. | Russia | 998,000 | ヨーロッパ・東アジア |
| 12. | Australia | 614,694 | オセアニア |
| 13. | Japan | 519,561 | 東アジア |
| 14. | Cambodia | 343,855 | 東南アジア |
| 15. | United Kingdom | 296,623 | 西ヨーロッパ |

出典:NationMaster.com <http://www.nationmaster.com/> 2013-05-07

参考:中華人民共和国 1,286,975,468 (July 2003 est.), 台湾 22,603,001 (July 2003 est.).

参考:一般に「人口の3%説」. 別の計算によると2000年で約300万人(Suryadinata 2003).

地縁(出身地):タイ東南部(潮州)、タイ南部(福建)、インドネシア(広東)、シンガポール・マレーシア・フィリピン(福建). 同郷団体による会館、公所、同郷会. 「幇(ぱん)」同業者・同郷者などの相互扶助組合.

考察:インドネシアにおける華人人口は他の国(たとえばタイ)の華人人口と比べてどのような特徴があるか。

考察:インドネシアにおける華人は他の民族集団(たとえばアチェ人、ミナンカバウ人など)と比べてどのような特徴があるか。

## 5. 中国の歴史 (10世紀から現代まで。枠で囲った年号はインドネシアに関係する年号。)

960-1279 宋朝. 1127-1279南宋. 中国南部の開発進展. 商業・貿易の飛躍的発展. 華僑勢力の登場.
1271-1368 モンゴル族の元朝成立.
1293 ジャワに元寇. 元の南海進出の一環.
1368-1644 明朝成立. 海禁政策で貿易を国家独占化. 日明勘合貿易と倭寇の活動.
1405-1433 明の鄭和, 7度の南海遠征. 華僑の南海進出を促進.
1596 オランダ船, ジャワに到達.
1644-1912 満州族の清朝成立.
1740 10月9-10日, バタビアで華僑虐殺事件. 中部ジャワ各地で華僑騒乱がおこる.
1840 アヘン戦争.
1894-1895 日清戦争. 清が破れ, 清中心の東アジア国際秩序の崩壊.
1912 辛亥革命の結果, 中華民国の成立.
1949 中華人民共和国の成立. 中華民国国民政府は台湾へ移動.
1955 バンドゥンで第1回アジア・アフリカ会議(バンドゥン会議).
1965 インドネシアで9月30日事件. スカルノ失脚. 華人を含む共産党員の虐殺. 1967中国と断交.
1971 中華人民共和国が国連に復帰.
1978 鄧小平、改革開放政策に転換. 「四つの近代化」(農業・工業・国防・科学技術).
1979 米中、国交正常化.
1985 インドネシアと中国が直接貿易再開に関する覚書に調印.
1990 インドネシアと中国の国交再開.
2001 中国、中国・ASEAN首脳会議において10年以内のFTA締結に同意.

## 6. オランダ領東インドの成立以前の移民

1. アラブ人, インド人, のちにはポルトガル人などとならんで中国人商人(海商)が活躍. 中国の金, 銀, 絹製品などと東南アジアの熱帯産物を交易する.
2. 居住は港市に限定. イスラム化するものもあり.
3. 『瀛涯勝覧』馬歓. 明朝の鄭和の南海遠征(1413-16, 1431-33)に随行. 1451年頃に最終的成立.
   …蘇魯馬益, 土地の名で蘇児把牙に着く. その港口は淡水が流れているが, 大船はここからは進みにくいので小船を用いて二十里ばかり行くと始めてそこに着く. ここにも村主がおり, 住民を千軒余り治めている. その中には中国人もいる…
   …この国には三種の人々がいる. 一種はイスラム教徒でみな西方諸国の商人であり, この地に流れてきたもので衣食その他は洗練されている. 一種は中国人でみな広東, 福建, 泉州の人々のここに逃れてきたもので, 日常生活は清潔で多くイスラム教を信じ, おつとめをしている. 一種は原住民で顔かたちはみにくく, もじゃもじゃ髪であかはだしで鬼教を信じている…

## 7. オランダ領東インドの成立以後の移民

1. 「新来→定住」のサイクル
   新客(シンケ)=totok. 峇々(ババ)=peranakan(←anak). 現地女性との通婚.
2. カピタン(←ポルトガル語. 中国語「甲必丹」)制による自治
   ポルトガル人やオランダ人は外来の外国人(中国人など)を統治する場合, 彼らの中から統率力のある人物を選んでカピタンに任命し, 法令の伝達, 徴税, 裁判などに関与させることによって, ある程度の自治を

認め，間接統治をおこなった．17世紀前半にバタヴィアで活躍した蘇鳴崗（Sou Beng Kong）は代表例．

3. 「複合社会」（plural society）―「人種原理」に基づく社会秩序．社会学者ファーニバルの用語．
異なった社会秩序が互いに分離したままで併存して単一の政治的単位を形成している状況．オランダ領東インドにおいては，最上層のオランダ人，中間層の「外来東洋人」（Vreemde Oosterlingen），最下層「原住民」（Inlander）の3要素から構成されていた．中間層はオランダの権力を背景に富の蓄積に専念した．
中国人と現地住民との同化も進んだが（peranakan）、流入し続ける新来者（totok）の数が常に上回る。
4. 18世紀にはジャワは東南アジア華僑のセンター
1739年のバタヴィアの華僑人口1万人．
大量の移民流入→1740年バタヴィアの華僑虐殺事件→中部ジャワの華僑争乱．
5. 19世紀前半からイギリス海峡植民地（マレー半島、シンガポール）で「海峡華人」が活躍。
6. 19世紀末～20世紀には大量の中国人非熟練労働者「クーリー」（苦力）の進出 （Chinese Diaspora）
Pull 要因：アメリカ・オーストラリアのゴールド・ラッシュ．奴隷解放による低賃金労働者の不足．
Push 要因：中国内部の混乱．解禁から開港への転換．
補助的な要因：帆船から汽船へ．海上交通機関の発達．
7. 1930年頃の東南アジアの華僑人口約800万人
1. 植民地企業の労働者：錫鉱山，ゴム園など．
2. 中間商：植民地資本と現地住民との間を流通部門で媒介する．徴税請負，阿片販売．植民地勢力のパートナーとして活動→反華僑感情の発生．
3. 経営者：成功したのは少数．Oei Tiong Ham（黄仲涵．1866-1924）製糖業；Liem Sioe Liong（林紹良=Sudono Salim）Bank Central Asiaなど．→政商（cukong）批判．
conglomerate: Astra=Soeryadjaya, Lippo=Mochtar Riady, Sinar Mas=Eka Tjipta Widjayaなど．

## 8. 民族主義運動から国民国家の形成（20世紀初頭から現在）

1. 1900年、ジャカルタに中華会館が設立．リー・キムホック（Lie Kim Hok 李金福）．プラナカンの儒教復興と生活習慣の改善．
1901年に「倫理政策」始まる→教育を中心とする「原住民」（pribumi）の福祉向上，官吏登用の道→華人内部の危機意識．
2. オランダ派：日本人の地位向上→ヨーロッパ人と同等の地位を求める動き．だが，白人支配体制は容認
中国派：中国国内の民族主義運動の影響→中国人としてのアイデンティティーを求める動き→peranakan的あり方からの脱皮
3. 一方，インドネシア民族主義は「裏返しの人種原理」に基づく→「インドネシア人」に華人を含まない
4. 独立後，華人はインドネシアか中国かの選択をせまられる
中国→中華人民共和国（1949年成立）と台湾（1950年、国民党政権）．冷戦時代
中華人民共和国→国際共産主義運動（→PKI=Partai Komunis Indonesia，反植民地の統一戦線）
1955年「二重国籍条約」：イ・中二重国籍者は，いずれかの一方を自らの意志で選ぶ．2年を経過して国籍を選択しないものは，父親が中国籍であれば中国籍，インドネシア国籍であればインドネシア国籍とみなされた．共産党シンパという華僑に対する疑惑を晴らす．「落地生根」
WNI=Warga Negara Indonesia（WNI keturunan asing⇔asli）⇔WNA=Warga Negara Asing
5. スハルト政権期の華人政策
Tiong Hoa⇔Cina（蔑称化）．改名．
1965年9月30日事件→共産党の禁止．華人を含む党員多数を虐殺．
1967年大統領決定1967年第41号で華人文化・宗教活動を禁止．
1969年二重国籍条約の廃棄
1980年国勢調査：外国籍中国人46万人．中国籍70%．残り無国籍（台湾籍）
しかし、SBKRI（Surat Bukti Kewarganegaraan Republik Indonesia国籍証明書）の強要
2006年新国籍法：インドネシアでの出生証明書があればインドネシア国籍

## 9. 中国とインドネシア・東南アジアの新しい関係

1998年、アジア金融危機が深まり、物価高騰のなか5月14日ジャカルタなどで暴動（1998年5月暴動、Glodok地区の焼き打ち）．5月21日スハルト退陣、ハビビが大統領に昇格．
1999年10月20日ワヒド大統領就任．
2000年1月18日ワヒド大統領、大統領決定1967年第41号を破棄．公な場における中国的習慣の表象（漢字の看板）や、伝統行事・宗教行事の開催が解禁．
2001年中国はブルネイの中国・ASEAN首脳会議において10年以内のFTA締結に同意．
2003年中国の春節（旧正月）が公式に国民の祝日（Imlek陰暦）となる（孔子生誕551BCEを元年とする）．
2005年「鄭和南海遠征600周年」記念．中国の対外的国威発揚．

## 10. 中国文化の復活

1. 儒教の公認（孔子教Agama Khonghucu）. 2006年.
2. nabi （預言者）: 孔子, kitab suci（聖典）:四書五經, tempat ibadah（礼拝所）:klenteng （＜観音寺）
3. 中国語メディア、中国語学習、イムレック
4. 印華文化公園（Taman Budaya Tionghoa Indonesia）をタマン・ミニ・インドネシア・インダ公園（Taman Mini Indonesia Indah, TMII）の中に建設開始. 2006年に門などが完成. 継続中.

## 参考文献（インドネシアの華人を中心として）


青木葉子. 2002.「インドネシア華僑・華人研究史―スハルト時代から改革の時代への転換―」『東南アジア研究』43(4): 397-418. 現時点での研究史の概観として有益.

可児弘明, 斯波義信, 游仲勲編. 2002.『華僑・華人事典』弘文堂.

北村由美. 2007.「エスニシティ表象としてのミュージアム:ポスト・スハルト期インドネシアにおける華人アイデンティティの創成」『言語社会』1: 385-361.

倉沢愛子. 2014.『9・30 世界を震撼させた日―インドネシア政変の真相と波紋』岩波書店. とくに9.30事件の華人社会への波紋.

白石隆. 1992.『インドネシア―国家と政治』リブロポート. とくに第6章「権力なきブルジョアジー」は現代のインドネシア社会における華人資本の位置をわかりやすく分析している.

田中宏. 1991.『在日外国人』（岩波新書）岩波書店. とくに第8章「外国人労働者と日本」は, 華人の問題を身近な例と比較して考えるための良い材料である.

津田浩司. 2011.『「華人性」の民族誌:体制転換期のインドネシアの地方都市のフィールドから』世界思想社.

テー・キアン・ウィー編. 1984.『インドネシアの経済』めこん.

ディディ・クワルタナダ. 2000.「体制移行期における華人社会―その進展と潮流―」後藤乾一編『インドネシア―揺らぐ群島国家』早稲田大学出版部. スハルト退陣後の華人を取り巻く社会環境の変化を分析.

斯波義信. 1995.『華僑』（岩波新書）. 岩波書店. 補記:東南アジアを中心に華僑の歴史を明確に記述.

平野實. 2008.『アジアの華人企業―南洋の小龍たち タイ・マレーシア・インドネシアを中心に』白桃書房.

宮崎正勝. 1997.『鄭和の南海大遠征―永楽帝の世界秩序再編』（中公新書）中央公論社.

山下清海. 2005.『華人社会がわかる本:中国から世界へ広がるネットワークの歴史, 社会, 文化』明石書店. 世界の華人社会を理解するための入門書として最適.

游仲勲『華僑―ネットワークする経済民族』（講談社現代新書）講談社, 1991.

Suryadinata, E.N. Arifin dan A. Ananta. 2003. *Indonesia's Population: Ethnicity and Religion in a Changing Political Landscape*. Singapore: Institute of Southeast Asian Studies.

Wang Ling-chi, Wang Gungwu, ed. 1998. *The Chinese Diaspora*. Singapore: Times Academics Press.


## 参考文献（インドネシア全般およびその他の民族について）


綾部恒雄, 永積昭（編）『もっと知りたいインドネシア』弘文堂. 1982.

石井米雄（監修）, 土屋健治他（編）『インドネシアを知る事典』同朋舎. とくにガイドライン「言語・民族」. 1991.

今井昭夫（代表）・東京外国語大学東南アジア課程（編）『東南アジアを知るための 50 章』明石書店. 2014.

大林太良（編）『東南アジアの民族と歴史』（民族の世界史 6）山川出版社. 1984.

内堀基光, 山下晋司『死の人類学』弘文堂. 1986.（ダヤク人、トラジャ人）

加藤剛（編著）『変容する東南アジア社会―民族・宗教・文化の動態』めこん. 2004.

クンチャラニングラット編, 加藤剛, 土屋健治, 白石隆訳『インドネシアの諸民族と文化』めこん. 1985.

染谷臣道『アルースとカサール―現代ジャワ文明の構造と動態』第一書房. 1993.（ジャワ人）

中島成久『ロロ・キドゥルの箱』風響社. 1993.（ジャワ人）

マルバングン・ハルジョウィゴロ著, 染谷臣道、宮崎恒二訳『ジャワ人の思考様式』めこん. 1992.（ジャワ人）

ミゲル・コルバルビアス著、関本紀美子訳『バリ島』平凡社. 1991.（バリ人）

森山幹弘・塩原朝子『多言語社会インドネシア』. めこん. 2009.

山下晋司『儀礼の政治学―インドネシア・トラジャの動態的民族誌』弘文堂. 1988.（トラジャ人）

吉田禎吾編著『バリ島民』弘文堂. 1991.（バリ人）

多言語･多文化社会「歴史と現在」
2014年5月15日

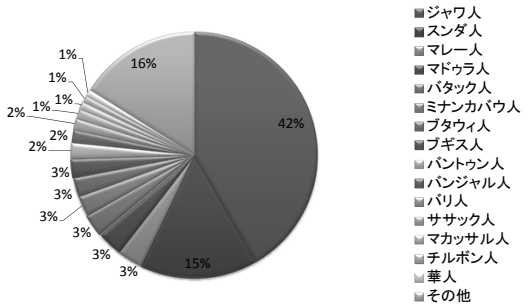
# 多民族国家インドネシアと華人ディアスポラ

青山　亨
東京外国語大学　インドネシア語専攻

## インドネシア概要

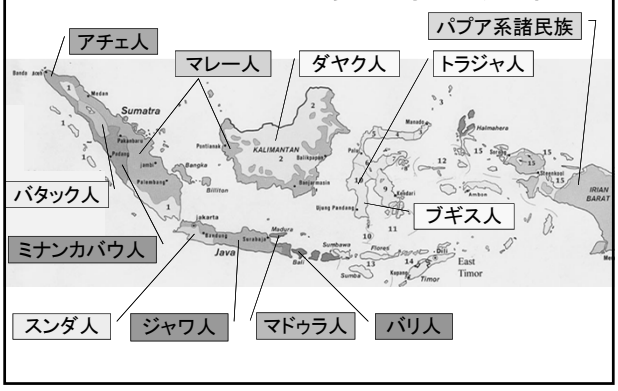
- インドネシア共和国（1945年8月17日独立）
- 面積　191万km²（日本の約5倍）、34州
  - 13,466の島々、東西5,000km以上
- 人口　2億5000万人（世界第4位）
  - ジャワ人、スンダ人など300以上の民族

## 主要民族の人口の割合

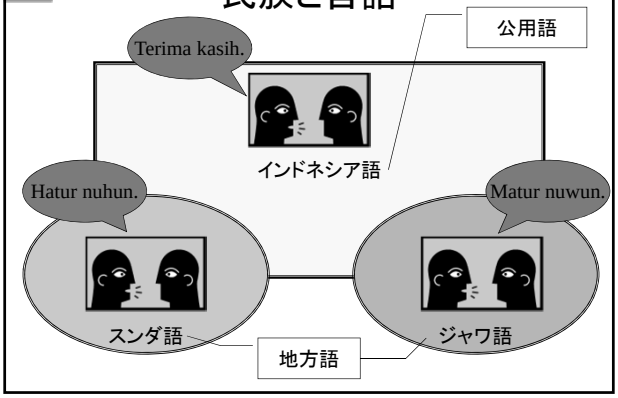



## Ethnic Groups in Indonesia

## インドネシアの主要民族の分布




## 民族と言語



## 民族・移民に対する政策

- 同化政策（assimilation）
  - 国民を構成する複数の民族は、融合・混交によって平等で均質な国民に同一化する。
  - 各民族の個別の文化の表現（儀礼など）は私的な空間でのみ認められる。
  - 現実には、マイノリティがマジョリティに吸収されることが多い。
- 統合政策（integration）
  - 国民を構成する複数の民族が平等な立場で共存することを認める。
  - 各民族の個別の文化を維持したまま、国民意識をもたせる。

## 子どもの国籍取得の原理

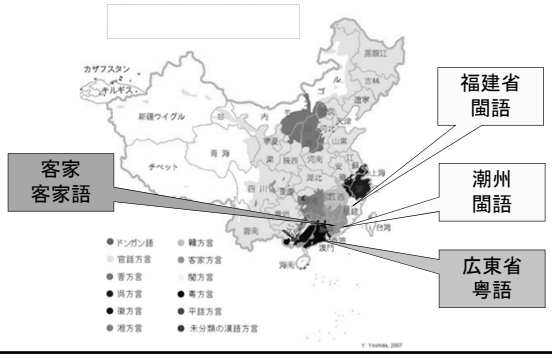
- 生地主義
  - 両親の国籍にかかわらず、自国内で生まれた者に自国の国籍を与える。
  - オランダ領東インド
  - （ただし、独立後も華人に対しては1960年まで）
- 血統主義
  - 親の国籍と同じ国籍を子に与える。
  - インドネシア、中国

## 海外在住中国人：華僑と華人

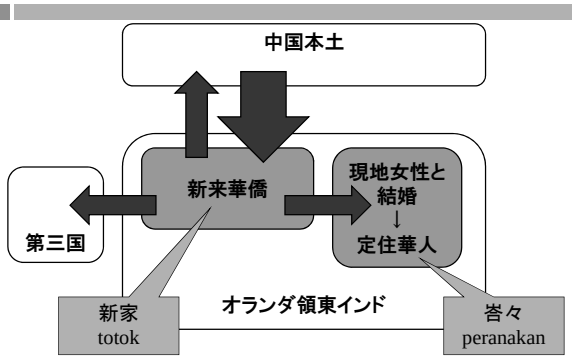
- 華僑：「華」＝中華、中国。「僑」＝仮住まい。海外に移住または在留している中国人で、本国の国籍を喪失していない者。「落葉帰根」「衣錦還郷」
- 華人：海外に移住して定住し、現地国籍をもつ中国人とその子孫。Overseas Chinese 「落地生根」
- 東南アジア・北米を中心に2800万人。現地国籍をもつ持つ者（華人）が9割。
- 「インドネシアの華人」＝中国系インドネシア人。移民により形成されてエスニック集団。

## 東南アジアにおける華人の分布

## 漢語諸語分布




## 移民のパターン



## 19世紀以前

- 華商（中国人商人）による交易ネットワークの拠点。チャイナタウン（唐人街）を形成。
  - マニラ（16世紀）
  - バタヴィア（17世紀）：1739年、約1万人
  - ポンティアナック（18～19世紀）：蘭芳公司
  - バンコク（18世紀）：1850年頃、約20万人
- チャイナタウン：商店、廟、会館
- 廟（klenteng）では三教（仏教、道教、儒教）を信奉

## 19世紀後半～20世紀初頭

大量移民の時代：華人ディアスポラの出現

- プッシュ要因
  - 太平天国の乱（1851～64年）
  - 南京条約（1842年）・北京条約（60年）
    ⇒海禁から開港へ
- プル要因
  - 19世紀前半での奴隷制度廃止の拡大
  - 植民地での農園・鉱山経営の拡大
  - アメリカ・オーストラリアのゴールドラッシュ
  - ⇒苦力（クーリー）の需要の増大
- 補助要因：帆船から汽船へ、スエズ運河開通

1930年頃の東南アジアの華僑人口約800万人

## 複合社会

- オランダ領東インドにおける植民地支配
- 複合社会（3層構造）
  - 白人支配層（オランダ植民地政庁）
  - 外来東洋人（中国人、インド人、アラブ人）
  - 現地人（プリブミ）
- 外来東洋人としての中国人
  - 移民＝固有の土地、先住権をもたない。
  - チャイナタウンはあっても「チャイナランド」はない。
  - 請負制度：徴税と専売（アヘン、酒、塩など）
    ⇒中間商として商業部門に進出⇒華人への反感

## 20世紀前半：民族主義の勃興

- 中国の民族主義の波が東南アジアにも波及
  ⇒「華僑」（中国人）意識の形成
  - 1894年　日清戦争⇒清の敗北が衝撃。孫文が興中会を創設。
  - 1900年　李金福がジャカルタに中華会館を設立。全ジャワの中国人を対象にした最初の近代的団体。
  - 1905年　中国同盟会を結成：「恢復中華、創立民国」⇒東南アジアでも活動。
  - 1911年　辛亥革命⇒中華民国樹立。
- インドネシア民族主義との摩擦
  - 帰属の悩み：インドネシア？中国？オランダ？

## 20世紀後半：独立後

国民統合に向けての同化政策

- 1945年、インドネシア独立。1949年、
  ⇒国民統合の必要、経済自立の必要
- 1955年　中国と二重国籍条約を締結
  ⇒華人（中国系インドネシア人）意識の醸成
- 1959年　大統領令第10号で地方における外国人（＝華僑）の商業活動の禁止⇒多くの華僑が出国。
- 1965年　9月30日事件⇒共産党関係者多数を虐殺（30万～50万人？）。華人も巻き込まれる。
- 1967年　大統領令第41号ほかの指令で華人文化・宗教活動の禁止、漢字・中国語の使用禁止、改名の強制。

同化政策をとる一方で、インドネシア国籍を持つ華人を差別

- 身分証明書（KTP）に華人の表示。
- 国籍証明書（SBKRI）の強要。

## 華人財閥の出現

独立前

- 黄仲涵（Oei Tiong Ham, 1866～1924）
  - 建源公司，「ジャワの砂糖王」

独立後

- 林紹良＝Sudono Salim
  - Salimグループ，Bank Central Asia
- 李文正＝Mochtar Riady
  - Lippoグループ
- 黄奕聡＝Eka Tjipta Widjaja
  - Sinar Masグループ

1970年代前半の国内民間投資の70～75%を華人が占める
⇒政商（cukong）多い⇒華人への反感

## 1998年：暴動と民主改革

- 1998年5月　ジャカルタ暴動
  - アジア金融危機（1997年）⇒ルピア下落・物価高騰
    ⇒ジャカルタ・グロドック地区で暴動⇒華人を標的に焼き討ち多発
    ⇒華人の国外脱出⇒資本の引上げ⇒経済に打撃
- 1998年5月　スハルト大統領退陣
  - 長期独裁政権の終焉⇒民主改革の始まり
- 華人政策の転換
  - 5月暴動の衝撃
  - 民主化：華人への人権侵害に対する反省
  - 経済回復：華人資本が必要

## 1998年5月暴動

- U.S. Department of State, 1999, *Indonesia Country Report on Human Rights Practices for 1998*
  - During massive riots in mid-May, mobs targeted the ethnic Chinese community, which was not protected by the authorities. Following the riots, allegations of mass rape of ethnic Chinese women were made, forcing the Government to establish a fact-finding team to investigate the riots and rapes. The team found that elements of the military had been involved in the riots, some of which were deliberately provoked. It also verified 66 rapes of women, the majority of whom were Sino-Indonesian, as well as numerous other acts of violence against women.

## 中国文化の復活

統合政策への転換

- 2000年　1967年大統領令第41号を破棄
  - 公的な場での中国的習慣の表象、伝統・宗教行事の開催が解禁
  - 中国語メディアの復活（テレビ、雑誌など）
  - 中国語学習の人気増加←増大する中国のプレゼンス
- 2003年　中国の春節（旧正月）を国民の祝日
  - イムレック（＜陰暦）
- 2006年　儒教の公認
  - 唯一神：天、預言者: 孔子、聖典：四書五經、礼拝所：廟
- 2006年　印華文化公園の建設開始
  - タマン・ミニ・インドネシア公園の一部として

## まとめ

- 華人の問題は、移民とその子孫の問題である。
  - 固有の領域、先住性をもたない。
  - 政治に正面から関与する道が閉ざされ、経済活動へ。
  - 繰り返されるジェノサイドの記憶。
- 植民地期は複合社会。
- インドネシア独立後は、同化政策。
  - 現実には差別。
- 民主改革期には、統合政策に転換。
- 文化資本としての華人性
  - 華人ネットワーク、「インドネシア人性」